

5. 廃棄物とリサイクル

◆ごみ

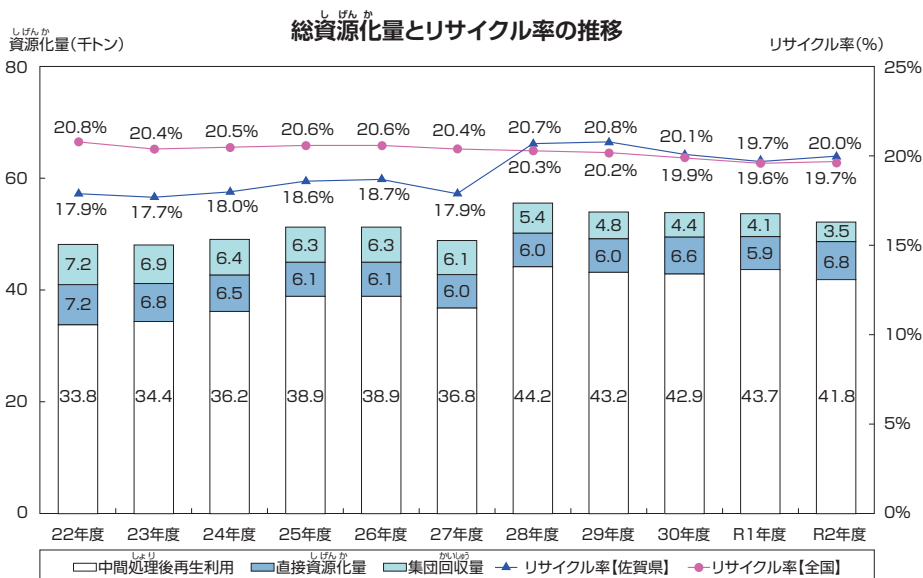
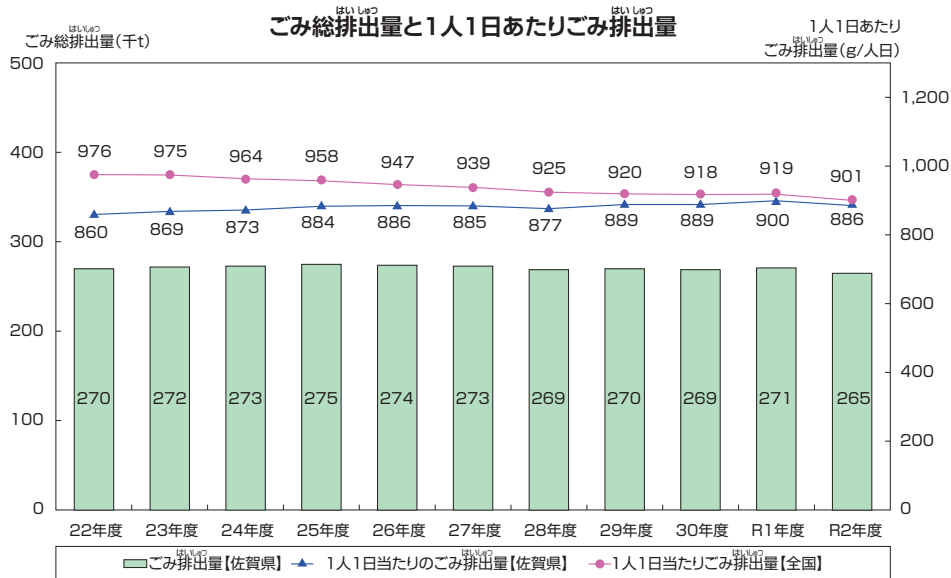
わたしたちが買い物に行くスーパーやデパートには、たくさんの製品や食品が売られています。

わたしたちは、買った製品が古くなっていらなくなったり、食べきれずに、食品が余ったりしたときは、ごみとして出しています。

現在、佐賀県民1人が1日に出すごみの量は、およそ886gです。県全体では、家庭などから1日におよそ725トンのごみが出されており、1年間にするとおよそ26.5万トン（2020年度）にもなります。

また、工場などから出される産業廃棄物もあります。

わたしたちが出すごみを減らすために、わたしたちができることを考える必要があります。



◆食品ロス

まだ食べられるのにごみとして捨てられる食品のことを「食品ロス」といいます。

日本中の家庭やレストランなどから出される食品ロスは、1年間で約522万トンと計算されており、これは1人あたりお茶碗1杯分（約113g）の食べ物が毎日捨てられていることとなります。

食べられるものがゴミになってしまうのは、とてももったいないことなので、好き嫌いをなくして残さず食べるようにすることが大切です。

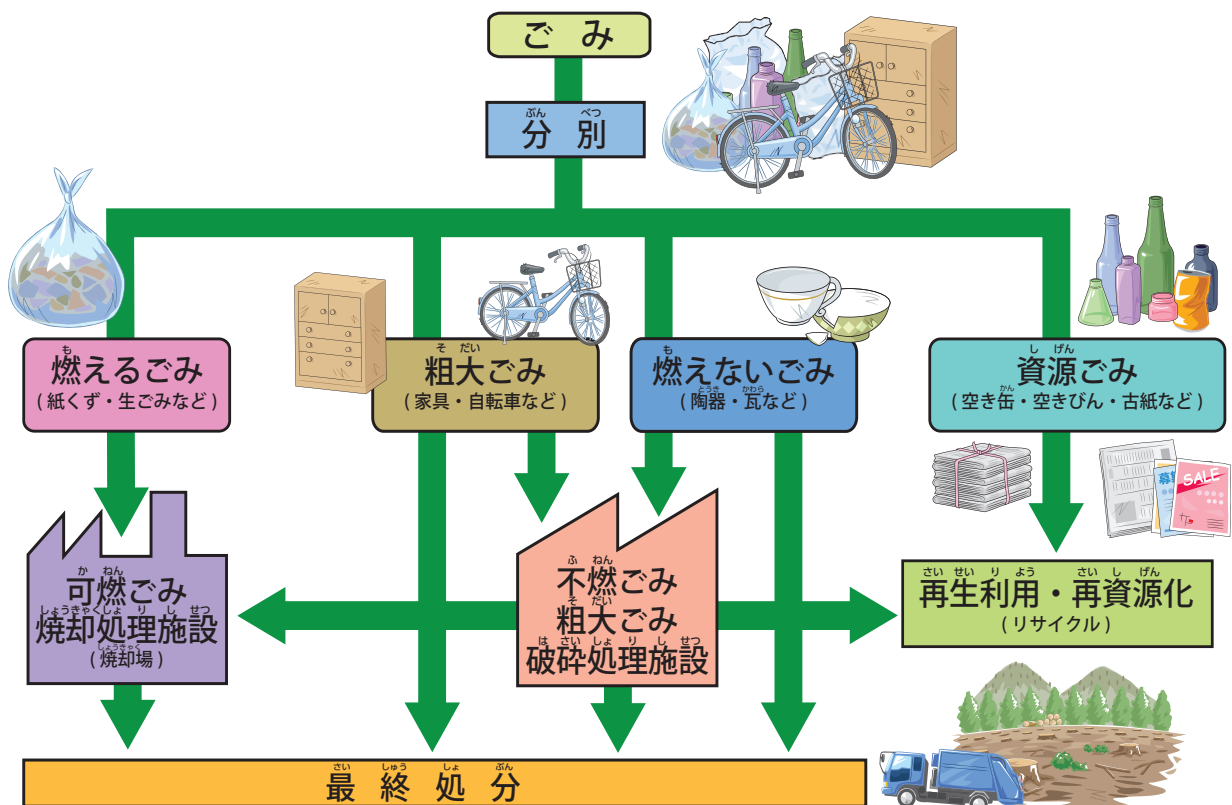
◆ごみの収集と処理

家庭や会社から出るごみは、大きく「燃えるごみ」、「燃えないごみ」、「粗大ごみ」、「資源ごみ」に分けられます。

家庭からのごみは、市役所や町役場のごみ収集車で集められて処理施設に運ばれます。

また、工場などから出る産業廃棄物は、専門の処理業者が集めて処理しています。集められたごみは、処理施設で燃やされたり細かくくだかれたりした後、埋め立てられます。

ごみの出る量が多すぎると、処理が間に合わなかったり、埋立地が足りなくなったりする心配が出てきます。



◆リデュース、リユース、リサイクル

わたしたちは、石油や木などからできた製品や電気を使いながら、便利な生活を送っています。しかし、石油などは何百万年という長い時間がかかってできるもので、人間が作ろうとしてもかんたんにはできないものです。このような資源はいくらでも使えるものではなく、その量には限りがあります。

わたしたちは、できるだけごみを出さないように工夫したり(リデュース)、何度もくり返して使ったり(リユース)、その後使えなくなったら別のものを作る原料として使うこと(リサイクル)が大切です。

家庭などから出るごみの中から、リユース、リサイクルできるものは、ごみとしてではなく、「資源物」として出すようにしましょう。

3R

①ごみを減らす

Reduce リデュース

- 使いきってごみを出さないようにする。
- ごみになりにくい製品を買う。
- 使いすての製品はなるべく使わない。
- 包装紙などはできるだけ少なくする。
- マイバッグを持って買い物にでかけ、レジ袋をもらわない。
- つめかえ製品を買う。



②くり返し使う

Reuse リユース

- ものはくり返し使う。
- いらなくなったものは、ほしい人にゆずる。
- フリーマーケットやリサイクルショップを利用する。
- こわれたら修理して使う。



③再生利用

Recycle リサイクル

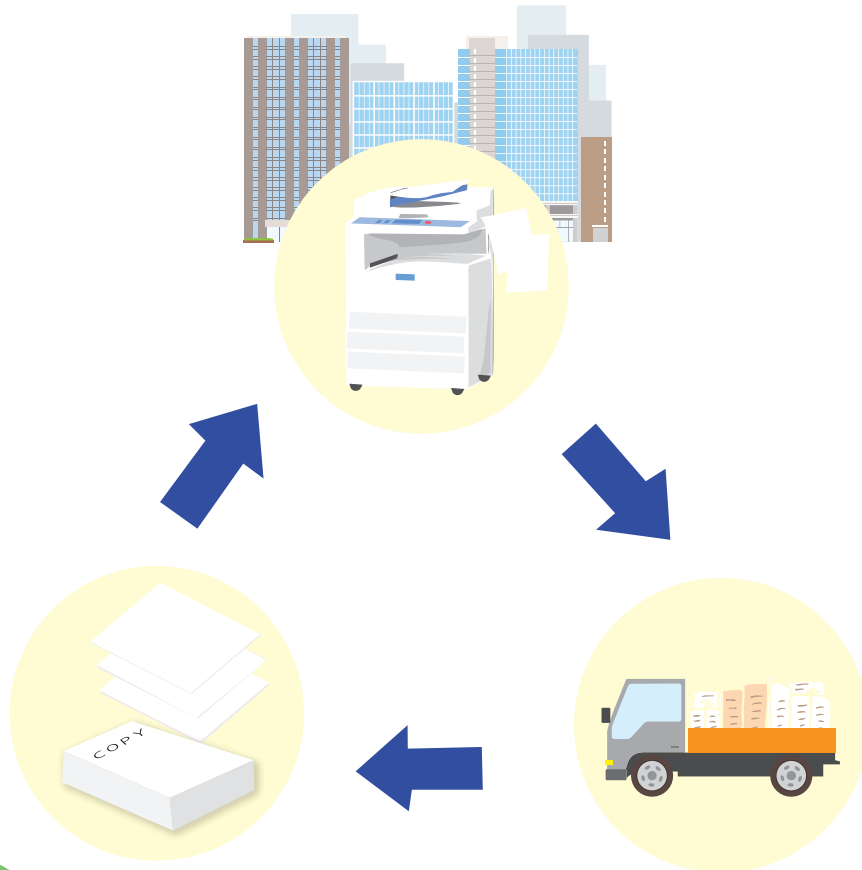
- 資源となるごみはきちんと分けて、資源回収に出す。
- リサイクルされた製品を使う。



◆循環型社会をつくるために

自然にある資源を節約し、ごみを捨てないで何度も原料として再利用して、環境への影響を少なくする社会を「循環型社会」といいます。

循環型社会をつくるためには、不必要になったものをきちんと分別することも大切ですが、リサイクル製品を積極的に買うことも大切です。



わたしたちに できること

- 使いすて製品をなるべく使わず、不必要な包みや袋は断るようにしましょう。
- ごみを出すときは、市町で決められたルールを守って、きちんと分別して出しましょう。
- 食事は残さず食べて、ごみを少なくしましょう。また、生ごみを出すときは、必ず水切りをきちんとしましょう。
- 買い物のときは、まず必要かどうか考えて、リサイクルされた製品やくり返し使える資源で作られたものなど、できるだけ環境にやさしいものを選びましょう。

◆海のプラスチックごみ問題

海洋ごみとマイクロプラスチック

近年、回収されずに川などを通じて海に流れ込み、海岸へ漂着したり、海に浮かぶ海洋ごみが問題となっています。

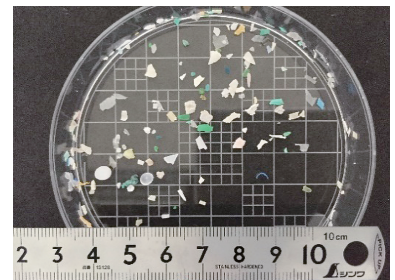
ペットボトルなどの容器包装から家庭用品やオモチャまで、日常生活のあらゆる場所で利用されているプラスチック。海洋ごみにはこのプラスチックが多くふくまれており、便利な一方で、海の環境に悪影響を及ぼしています。

「海洋プラスチックごみ」は長期にわたり海に残り、このままでは2050年までに魚の量を上回ることが予測されるなど、地球規模での環境汚染が心配されています。

また、中にはマイクロプラスチックと呼ばれる5ミリメートル以下のプラスチックも増えており、動物がそれらを飲みこんでしまうなど、生き物とその生き物が生息する環境へ影響をあたえるとともに、海からとれる食べ物を通じて人の体に取り込まれ、人体にも影響をあたえることが心配されています。



佐賀県唐津市海岸



資料：九州大学 磯部研究室

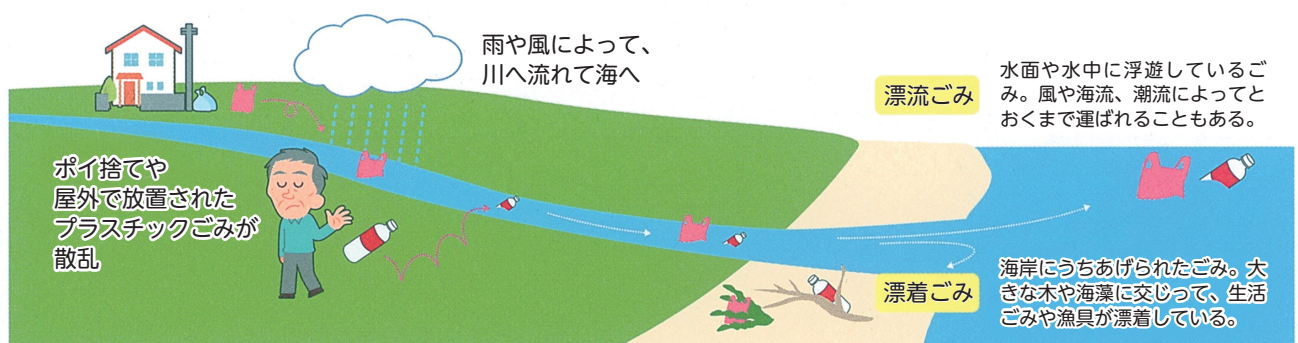
海のプラスチックごみはどこからくるの？

海のプラスチックのほとんどは陸からのプラスチックごみです。レジ袋やペットボトル、使い捨ての食器、商品のパッケージなど、使い捨てにされるプラスチックごみがポイ捨てされたり、屋外に放置されたりすると、雨や風によって川に入り、海に流れ出てしまいます。

海に流れ出たプラスチックのごみは、潮の流れや風の力によって遠くまで運ばれたり、水面や水中に浮かんで遠くまで運ばれたり、海の底に沈んだりしています。



佐賀県唐津市海岸



プラスチックごみを減らす取組

こうした問題の解決に向けては、私たち一人一人が毎日の暮らしの中でプラスチックごみを減らす取組をしていくことが重要です。

佐賀県では、すべての県民がプラスチックごみ問題を理解し、自分から進んでプラスチックごみを減らすことを目指す「プラスマLifeさが」に取り組んでいます。

一人ひとりがプラスチックごみを少しずつ減らす生活を心がけることで、大切な佐賀の自然を守っていきましょう。

わたしたちに できること

- マイバッグを持参し、レジ袋はもらわない。
- マイボトルを持ち歩き、プラスチックのカップの使用を減らす。
- マイはしを持ち歩き、プラスチックのスプーンやフォークの使用を減らす。
- プラスチック製のストローの使用を少なくする。
- スーパーなどで食品を小分けにするポリ袋の使用を減らす。
- 詰め替え用ボトルなど繰り返し使えるものや、環境にやさしいプラスチックを使用したものを選ぶ。
- 食品の保存はふた付き容器を使い、ラップの使用を減らす。
- 海・川・山のレジャーではごみを持ち帰る。
- 河川敷や海岸の清掃活動に参加する。
- ごみは所定の場所・時間に、分別して出す。
- ごみのポイ捨て、不法投棄はしない。



佐賀県の取組例



有明海クリーンアップ作戦



海岸清掃の様子



県内一斉ふるさと美化活動